

平成25年度第1回鳴門市児童福祉審議会 議事概要

日時 平成25年度7月18日（木）午後2時～午後4時

場所 鳴門市役所本庁舎3階 会議室

出席者 委員16名、市（事務局を含む）職員12名

欠席者 なし

議事

1 開会

2 委嘱状交付

泉市長から委嘱状が交付されました。

3 市長あいさつ

4 議事

(1) 会長及び副会長の選任について

会長に浜崎委員（鳴門教育大学大学院教授）、副会長に田口委員（医療法人田口小児科クリニック理事長）が選任されました。

(2) 鳴門市の子ども・子育て支援事業計画に係る諮問

泉市長から審議会に対して諮問を行いました。

(3) 子ども・子育て関連3法について

事務局から制度に関する説明を行いました。

(4) 鳴門市子ども・子育て支援事業について

事務局から本市で現在実施されている幼児期の子どもに対する支援事業等について説明を行い、次の意見等が出されました。

（委員）

地域子育て支援拠点事業について、県外では保育園ごとにかような事業を行っているところもある。今後鳴門市において、このような保育園で実施する子育て支援拠点事業を増やすことはないのか。

（市）

現在、うずしお保育園で行っているが、今のところ、他の保育所では実施予定はない。ただ、他の保育所では「わんぱく教室」を開催することで在宅児の受け入れを行

っている。

また、今後の本市の子育てに関する支援のあり方について、保護者の方々のニーズをお伺いしながら鳴門市の子育て支援策について検討していくことになる。

(5) 鳴門市子ども・子育て支援事業計画策定について

事務局から子ども・子育て支援事業計画策定に関する内容及びスケジュールについて説明を行い、次の意見等が出されました。

(委員)

計画書に認定こども園についてはニーズがなければ記載をせず、ニーズが高ければ記載するという考え方か。

(市)

アンケート調査の結果を踏まえ、審議会でどのような供給体制が適当かを議論いただき、鳴門市は認定こども園が必要という結論になった場合は、計画書にも記載をするということになる。

(委員)

幼稚園や保育所に行かない就学前児童に対する支援については、どのように考えているのか。

(市)

幼稚園や保育所を利用しない方に対しては、子育て支援を実施する、保育所を利用する方に対しては、子育て支援に加え、児童クラブや預かり保育等を実施する等、それぞれの立場に応じたサポートを計画に盛り込もうということなので、幼稚園や保育所に通っていない方に対する支援が漏れるものではない。

(委員)

アンケートの対象者と対象者数、回収率向上のための方策を聞かせてもらいたい。

(市)

アンケートの対象者は就学前児童世帯1,500部程度、就学児童世帯の中で1年生から3年生までの世帯に1,000部。回収率は70%程度を目指したい。

分量が多いアンケートなので、回収率を上げるためのアンケート内容の分かりやすさ、広報活動に取り組むほか、委員の皆様にもアンケートに対する意見をいただきたい。

(委員)

せっかくのアンケートなので、回収率向上のために工夫してはどうか。受け入れ型のアンケートではなく積極的なアンケートを行ってはどうか。

(委員)

アンケートを回答していて、潜在的なニーズが知りたいということは分かるが、回答者側からすると、「このサービスを受けるのにはいくらかかる」や、利用料との関係が無いと非常に答えにくい。

(委員)

質が高い保育・量を拡充するということが目的とあるが、「何を持って質となすか」ということが全く問われていないので、非常に答えにくい。

親がどういう教育方針を持って「子どもの教育の質」と考えているのか、ということが入っていない。例えば、保育園で通常教えて欲しい事、「ひらがなを教えて欲しい」など、これから絶対に考えていかなければいけない項目だと考える。せっかく調査をするのであれば、そういう項目が質問として一つ二つあってもいいのではないか。

(市)

国の考え方の、「量」と「質」について、「量」というのは当然、保育量を増やしていこうという量的なもの。「質」というのは、職員の処遇の改善を念頭に置いている。今、鳴門市も含め保育士の方が不足している状況である。このことから、ここでいう「質の確保」は職員の処遇の改善による保育士の確保を指している。しかし、提案のように、ニーズ調査では、保護者が「質の確保」をどのように考えているのか、ということも、今後の子育ての一つの指針としては必要な部分になる、ということで、検討させていただきたい。

(委員)

子どもの数が少なくなってきている。計画期間の5年の出生率や、該当する子どもの数も毎年考慮し、それで支援事業計画を作成していかなければならない。

(市)

確かに子どもの数は減っている。需要見込みに関し、今回ニーズ調査や希望調査によるものだけではなく、鳴門市の人口がどうなっていくか、ということも踏まえたいうえで、需要見込みを出す必要があると考えている。

(委員)

鳴門市は認定こども園が必要だとしても、一般の方がどういう風に認識されているか、説明、定義やメリット、デメリットといったところが入っていると、それを見て本当に必要なかどうかと判断できるので、そういう説明もある方が望ましい。

(市)

認定こども園がある市町村に比べ、鳴門市では認知度が低い。また、無いからということで関心が薄れているという面もあると思う。どのようなものか、という説明書きは必要かと思う。

5 その他

その他の事項として次の意見等が出されました。

(委員)

新制度に向けて、私立保育所も認定こども園を視野に入れて一緒に進んでいきたい。

(委員)

親にとって、親が便利なような子育て支援というか、親にとっての支援と、子どもにとっての支援と、別のような気がする。質の高い幼児期、質が高いってどういうことだろうと、親の側からだけ聞くのではなく、子どもの側からもしっかり考えていかないといけないと思う。

(会長)

子どもにとって支援というのが、本当にされるかどうか、というのを踏まえて今後議論していきたいと考える。

6 閉会